

第201号 平成30年5月20日



市議会だより

■主な内容

通年議会	2
2月臨時会の概要	2
3月定例会の概要	
主な議案審査状況	4
議決一覧	9
代表質問	11
一般質問	12



三重県指定無形民俗文化財「獅子神楽」3月17日伊奈富神社にて

市議会の詳しい情報は鈴鹿市議会のホームページをご覧ください

鈴鹿市議会

検索

<http://www.city.suzuka.lg.jp/gikai/>



平成30年5月から「通年議会」がスタート!

鈴鹿市議会では、議会機能のさらなる充実を図り、議会が主導的かつ機能的に活動できるようにするため、議会の会期を通年とする鈴鹿市議会基本条例の一部改正を行いました。

通年議会では、これまでの年4回（6月、9月、12月、3月）の定例会を年1回とし、その会期を約1年間とすることで、その間は必要に応じ、議会の判断で会議を開くことができるようになります。

議案審議や一般質問などを集中して行う定例議会（6月、9月、12月、2月）はこれまでの定例会と同様ですが、災害などの突発的な事態や緊急の行政課題にも素早く対応できるようになり、市政に対する監視機能の強化が図られ、常任委員会は、所管する部局の事務を継続的に調査するなど議会活動の活性化が可能になります。

「通年議会」のメリットを十分に生かし、政策立案機能などの議会機能の充実強化に努めます。

鈴鹿市議会 通年議会のイメージ

5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	
会 期 												
開 会 議 会	休 会 (委 員 会)	6 月 定 例 議 会	休 会 (委 員 会)	9 月 定 例 議 会	休 会 (委 員 会)	休 会 (委 員 会)	12 月 定 例 議 会	休 会 (委 員 会)	休 会 (委 員 会)	2 月 定 例 議 会	休 会 (委 員 会)	閉 会 議 会
開 会	再 開			再 開			再 開			再 開		
※休会中の災害などの突発的な事態や緊急の行政課題には、必要に応じて臨時議会を開催します。 ※休会中でも、常任委員会などで継続的に調査や審査を行います。												

2月臨時会の概要

スポーツ関連施設の管理運営を市の直営に

全会一致で原案可決となりました

2月臨時会を、2月4日に開催しました。

「鈴鹿市都市公園条例等の一部改正について」の議案が市長から提出され、提案説明、議案質疑の後、文教環境委員会に付託し、詳細に審査を行いました。

委員会での審査終了後、本会議が再開され、文教環境委員長から報告があり、討論、採決を行い、原案可決し、閉会しました。

委員会での主な議案審査状況や本会議での討論、議決一覧については次のとおりです。

議案審査では、スポーツ施設の管理運営が市の直営となることで、平成30年度当初予算にどのような変更が生じるのかを問いました。

執行部の答弁

- ・ 使用料やスポーツ教室の参加料が市の収入となります。
- ・ 単純比較は難しいのですが、支出は、指定管理候補者の提案額と比較すると高額になると見込んでいます。
- ・ 一般財源としては、債務負担の限度額と同程度になると考えています。
- ・ 人件費については、現在の被雇用者と同程度の人数（一部施設では若干増）で算定しています。

討 論 (要旨)

討論は議案に対する賛否の態度、考え方を明らかにするものです。(討論順)

中西 大輔 議員 (鈴鹿の風)

議案第1号に賛成

以下の意見を述べる。

スポーツ関連施設が所管に分かれ市の直営となるが、責任の所在が縦割りにならないよう、中心的になる部を設定し、マイナス面が市民に及ばないようにすべき。

検討期間について、市立体育館の改修が完了、管理運営が開始される2020年4月を区切りとし、金額差を最少とするためにも、2018年度中に方向性を出すべき。その際、市長をトップとした行政経営会議で責任を持つべき。

市民参画の意思形成は外せない要素。無作為抽出で、より多くの市民の皆さんに声掛けし、考えを整理すべきである。

宮木 健 議員 (自由民主党鈴鹿市議団)

議案第1号に賛成

私たちの会派は、先の12月議会において、指定管理者の指定について賛成の立場を取った。

ゆえに、議案第1号については、反対の立場をとるのが本筋である。直営になれば費用

が上がることは明白であったことで、指定管理者制度そのものを議会が否定したと捉えている。

しかし、この問題は多年にわたり公募、非公募を含めた議論を重ね、変遷があった。この際、腰を据えて検討し、市民に対し明確な施策を示せるよう、期限を決めず、市の直営で執行すべきと判断し、賛成と判断した。

議 決 一 覧 (2月臨時会)

【賛成：○ 反対：×】

議 案	会派名 ()は所属議員数	緑	鈴	自	リ	鈴	公	日	市	無	無	議決結果
		風	鹿	由	ベ	鹿	明	本	民	所	所	
		会	市	民	ー	の	党	共	民	所	所	
		(5)	(5)	(5)	(4)	(3)	(3)	(3)	(2)	(1)		
議案第1号	鈴鹿市都市公園条例等の一部改正について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決

※議長は原則として採決に加わりません。 ※会派等構成員一覧は、10ページに掲載しています。

3月定例会の概要



3月定例会を、2月20日から3月23日までの32日間、開催しました。

開会日の2月20日には、平成30年度鈴鹿市一般会計予算など19件の議案が市長から提出され、提案説明が行われました。

3月1日には、提出議案に対する質疑、2日には市長の施政方針に対し、7会派から代表質問を行いました。

また、5日、6日、7日、9日の4日間で21名の議員が一般質問を行いました。

9日には、追加提出された議案6件を含む議案25件を委員会に付託しました。

12日、13日、15日、20日には各委員会で付託議案などの審査を行いました。

会期最終日の23日には、付託案件について各委員長から報告があり、議案25件はいずれも可決しました。

さらに、鈴鹿市議会基本条例の一部改正についてなど2件の議案が議会運営委員会から提出され、いずれも可決しました。

また、市長から鈴鹿市固定資産評価審査委員会委員の選任同意についてなど5件の議案が追加提出され、いずれも可決して閉会しました。

議案については委員会に付託し、詳細な審査を行いました。主な議案審査状況については以下のとおりです。

総務委員会

議案第17号 鈴鹿市消防団条例の一部改正について

〔 大規模災害に対応するため、消防団員の定数を増員するほか、所要の規定整備を行おうとするものです。 〕

議案審査では、大規模災害対応団員の入団希望者が増えた際の対応を問いました。

執行部の答弁

- ・大規模災害対応団員は、救急法の知識、消火能力の必要性などから、消防本部で講習をカリキュラム化し、受講してもらうという条件で、これから門戸を広げていく方向性で考えています。ただし、消防団の基本団員の充実、各地域の団員数の格差是正も必要なので、バランスを考慮して検討します。



地域福祉委員会

議案第14号 鈴鹿市国民健康保険条例及び鈴鹿市国民健康保険支払準備基金条例の一部改正について

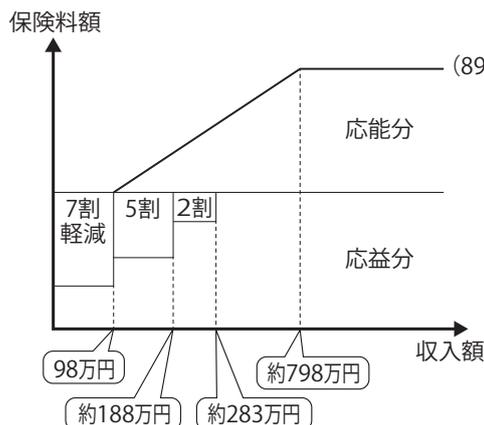
〔 持続可能な医療保険制度を構築するための国民健康保険法等の一部を改正する法律の施行に伴い、国民健康保険料の賦課に関する規定の改正を行おうとするものです。 〕

議案審査では、賦課限度額の改定や影響が出る世帯数を問いました。

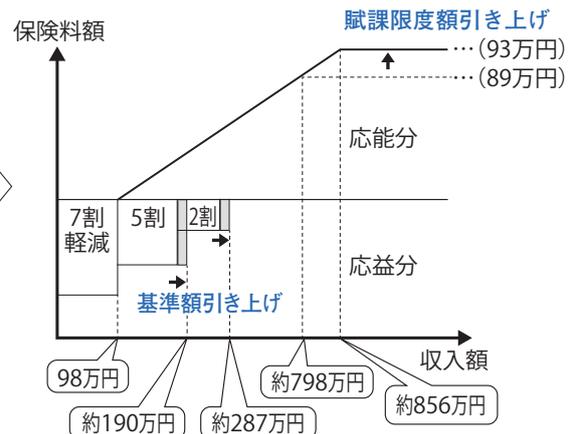
執行部の答弁

- ・ 賦課限度額の引き上げについて、国の政令が改正になり、政令に基づき、本市でも引き上げていくことになりました。賦課限度額の引き上げを行うことで、高所得者は負担増となる分、中間所得層の負担軽減につながります。また、政令の改正により、低所得者に対して軽減拡充が行われます。
- ・ 賦課限度額引き上げによって影響が出る世帯は約500世帯で、約1,700万円の保険料増収が見込まれます。一方、軽減拡充については、対象となる世帯が約120世帯増え、約500万円の減収となりますが、減収分については国などから保険基盤安定負担金として補填されます。

【現行制度】 H29年度



【改正(案)】 H30年度



※給与収入：40歳代夫婦と子の3人世帯の場合の試算

産業建設委員会

議案第16号 鈴鹿市都市公園条例の一部改正について

〔 都市公園法及び同法施行令の一部改正に伴い、公園施設に関する制限を定めるほか、近鉄白子駅西の新生公園について、一般の公共の用に供する自転車駐車を仮設の施設として設け、占用の許可を与えることができるよう条例に規定しようとするものです。 〕

議案審査では、白子駅西第3自転車駐車場は、平成31年3月1日供用開始予定であるのに、仮設の自転車駐車場として使用する期間が平成31年7月までとなる理由を問いました。

執行部の答弁

- ・ 実際に使用する期間は平成31年2月末までとなりますが、放置自転車の撤去に時間を要する場合があるため、使用期間を平成31年7月までとしています。

予算の審査については、総務、文教環境、地域福祉、産業建設の各分科会に分かれ、それぞれの所管に属する予算について詳細な審査を行いました。予算決算委員会の全体会においては、各分科会から審査の経過と結果の報告を受け、審査を行いました。

総務分科会

議案審査では、大規模災害対応団員について、年間の訓練予定回数や、消防団員の基本団員に準じて出動手当、災害補償が支給されるのか、消防団の定数に含まれているかを問いました。

執行部の答弁

- ・年2、3回の訓練を予定しています。一番大きな訓練は、鈴鹿市総合防災訓練で、それに参加してほしいと考えています。また、大規模災害時の情報収集を主な任務としているので、情報収集に関する訓練を年2、3回ほど行いたいと考えています。
- ・基本団員と、年間報酬に差がありますが、出動手当、災害補償は同じです。
- ・大規模災害対応団員は、消防団の定数（475人）に含まれています。

文教環境分科会

議案審査では、不登校対策について、スクールライフサポーターの今後の配置予定人数、不登校対策アドバイザーの役割を問いました。

執行部の答弁

- ・平成30年度からスクールライフサポーターを5人増やし、20人とします。不登校や不登校傾向を示す子どもたちに直接家庭訪問を行ったり、学校生活での見守りや声かけをするといった寄り添いながら行う支援は大きな成果が出ており不登校の割合、不登校児童数が改善されています。
- ・不登校対策アドバイザーは、不登校児童生徒の状況から各学校への指導や助言を行うとともに、スクールライフサポーターへの効果的な取り組みの提示、活動環境の整備を踏まえて配置するものです。学校の不登校対策の取り組みを充実させていきます。



地域福祉分科会

議案審査では、5歳児健診における幼稚園・保育園との連携状況や、小学校への就学対応を問いました。

執行部の答弁

- ・ 集団適応健診検討会議を立ち上げ、検討会議の委員には、医師会・公私立の幼稚園・保育園（所）の代表者や市の関係部署（健康づくり課、子ども育成課、教育指導課）の職員などがいます。なお、平成30年度の会議は年3回行う予定です。
- ・ 5歳児健診などにおいて、集団へのなじみにくさがある児童の早期発見・早期支援により、円滑な就学につなげます。当然、就学後の支援も重要であり、教職員のスキルアップや外部人材の活用を通して対応します。

産業建設分科会

議案審査では、水素ステーションの維持管理費の内容と、水素ステーションは公用車にしか使用できないのかを問いました。

執行部の答弁

- ・ 維持管理費は、主に水素ステーションのメンテナンス費用として、フィルターエレメント、純水装置イオン交換樹脂膜交換費用、水素ガス検知器検査員派遣費などがあります。
- ・ 現状は、契約により市が管理する公用車でのみ使用しか認められていませんが、現在、同施設を導入している他自治体との会議などで公用車以外でも使用できないか検討しています。



< 議案について >

森川ヤスエ議員（日本共産党）

議案第2号、議案第8号、議案第9号、議案第20号に反対 その他議案は賛成

議案第2号について、上水道会計、国保特別会計が独立採算だからと、全てを市民負担に転嫁するという安易な方法を取るべきではなく、行政として検討するべき。マイナンバー

制度は誰も恩恵を受けることはなく、国に対して廃止を要望すること。地域づくり推進事業費の一括交付金は時期尚早で、期限を区切って全市に強引に進める手法は賛成できない。議案第8号、第9号は、上水道、下水道料金値上げの当初予算であり反対。議案第20号は、長年にわたり本市の行政に貢献されてきた職員の退職手当を引き下げる案であり反対。

藤浪清司議員（公明党）

全議案に賛成

議案第2号について、平成30年度から集団適応健診（5歳児健診）を対象年齢の全ての児童に実施するなど、スムーズな就学へつなぐための支援体制の充実を図っていくための予算などが計上されており、一部の予算に対

する反対を理由に否決することは、全ての事業の執行を遅らせることになるので、議員各位の賛同を求めたい。今後、財政の健全化に努めるとともに、計画的に、教育や健康維持など将来を見据えた投資に対して必要な予算措置を行うべきであり、学校トイレの改修や老朽化した教育施設の改修、IT化など教育環境の整備予算の拡充を求める。

森 雅之議員（自由民主党鈴鹿市議団）

議案第14号に反対 その他議案は賛成

国保の賦課限度額の引き上げ（現行89万円から93万円）に反対する。低所得者層に対しての保険料の5割軽減と2割軽減の拡充には賛成の立場である。国保の限度額の推移は、平成5年が50万円、平成20年度は68万円、平

成30年度には93万円となっている。国保料は必要な医療費を加入者に割り振る仕組みであり、加入者の負担能力や生活実態を把握し、負担できる保険料額が課される仕組みではない。国保は、無業者や低所得者、高齢者がほとんどを占めており、市民の健康を守る皆保険制度であり、セーフティーネットである。国保の構造的な問題への着手が急務である。

中西大輔議員（鈴鹿の風）

全議案に賛成

議案第2号、第17号について、以下の意見を述べる。

議案第2号について、予算編成で厳しい財政が理由に挙がるのであれば、人件費にメスを入れる必要がある。各種計画の検討について、

若い世代も含めた市民参画を推進すべき。今年が総合計画2023前期計画の最終年で重要な1年。政策選択にあたり、事業を縮小、もしくは仕分ける必要がある。また、予算の精度向上に取り組むべき。行財政運営の透明性を高め、中高生でも分かりやすい形で情報開示すべき。議案第17号に関し、今後も多様な人材が消防団活動に参加できるように検討すべき。

水谷 進議員（リベラル鈴鹿）

全議案に賛成

平成30年度鈴鹿市一般会計予算は、個人や法人市民税の増額を見込み、また個人消費の伸びから地方消費税交付金の増額を見込むものの、市税などの増収の影響から地方交付税などが前年度より大きく減少し、結果、本年

も財政調整基金より25億円を繰り入れた上で前年度と同程度の一般財源が確保されている。総合計画と連動された予算において、当初より財政調整基金からの繰り入れを見込んだ予算編成での鈴鹿市総合計画は果たして大丈夫なのか、事業を進める上でも大変不安を感じる。今後、財政調整基金の適正残高などについて検討していただきたいと意見する。

議決一覽（3月定例会）

【賛成：○ 反対：×】

議案	会派名 ()は所属議員数	緑	鈴	自	リ	鈴	公	日	市	無	無	議決結果
		風	鹿	由	ベ	鹿	明	本	民	所	所	
		会	市	民	ラ	の	党	共	ク	属	属	
		(5)	(5)	(5)	(5)	(4)	(3)	(3)	(3)	(2)	(1)	
議案第2号	平成30年度鈴鹿市一般会計予算	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	原案可決
議案第3号	平成30年度鈴鹿市国民健康保険事業特別会計予算	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	〃
議案第4号	平成30年度鈴鹿市土地取得事業特別会計予算	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	〃
議案第5号	平成30年度鈴鹿市住宅新築資金等貸付事業特別会計予算	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	〃
議案第6号	平成30年度鈴鹿市介護保険事業特別会計予算	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	〃
議案第7号	平成30年度鈴鹿市後期高齢者医療特別会計予算	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	〃
議案第8号	平成30年度鈴鹿市水道事業会計予算	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	〃
議案第9号	平成30年度鈴鹿市下水道事業会計予算	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	〃
議案第10号	鈴鹿市議会議員及び鈴鹿市長の選挙における選挙運動用自動車の使用及びポスターの作成の公費負担に関する条例の一部改正について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	〃
議案第11号	鈴鹿市手数料条例の一部改正について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	〃
議案第12号	鈴鹿市立幼稚園条例の一部改正について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	〃
議案第13号	鈴鹿市療育センター条例の一部改正について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	〃
議案第14号	鈴鹿市国民健康保険条例及び鈴鹿市国民健康保険支払準備基金条例の一部改正について	○	※1	○	○	○	○	○	※2	○	○	〃
議案第15号	鈴鹿市後期高齢者医療に関する条例の一部改正について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	〃
議案第16号	鈴鹿市都市公園条例の一部改正について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	〃
議案第17号	鈴鹿市消防団条例の一部改正について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	〃
議案第18号	鈴鹿市ラブホテル建築等規制に関する条例の廃止について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	〃

※1 矢野仁志議員、宮木 健議員、森 雅之議員、山中智博議員は反対、森 喜代造議員は退席。（次ページへ続く）
 ※2 大西克美議員、市川哲夫議員は賛成、原田勝二議員は反対。

議案	会派名 ()は所属議員数	緑	自	リ	鈴	公	日	市	無	無	議決結果
		風	由	ベ	鹿	明	本	民	所	所	
		会	民	ラ	の	党	共	民	所	所	
		(5)	主	ル	風	党	産	民	所	所	
		(5)	党	鈴	の	党	党	民	所	所	
		(5)	鈴	鹿	鈴	鈴	鈴	鈴	鈴	鈴	
		(4)	鹿	市	鹿	鹿	鹿	鹿	鹿	鹿	
		(3)	市	議	市	市	市	市	市	市	
		(3)	議	団	議	議	議	議	議	議	
		(3)	団	党	団	団	団	団	団	団	
		(2)	党	鈴	党	党	党	党	党	党	
		(1)	鈴	鹿	鈴	鈴	鈴	鈴	鈴	鈴	
		(1)	鹿	市	鹿	鹿	鹿	鹿	鹿	鹿	
議案第19号	市道の認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
議案第20号	鈴鹿市職員退職手当支給条例等の一部改正について	○	○	○	○	○	×	○	○	○	〳
議案第21号	平成29年度鈴鹿市一般会計補正予算（第5号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	〳
議案第22号	平成29年度鈴鹿市国民健康保険事業特別会計補正予算(第2号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	〳
議案第23号	平成29年度鈴鹿市後期高齢者医療特別会計補正予算(第2号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	〳
議案第24号	鈴鹿市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部改正について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	〳
議案第25号	鈴鹿市消防団員等公務災害補償条例の一部改正について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	〳
議案第26号	鈴鹿市職員定数条例の一部改正について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	〳
議案第27号	鈴鹿市固定資産評価審査委員会委員の選任同意について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	同意
議案第28号	鈴鹿市固定資産評価審査委員会委員の選任同意について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	〳
議案第29号	人権擁護委員候補者の推薦同意について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	〳
議案第30号	人権擁護委員候補者の推薦同意について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	〳
議案第31号	人権擁護委員候補者の推薦同意について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	〳
委員会発議案 第1号	鈴鹿市議会基本条例の一部改正について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
委員会発議案 第2号	鈴鹿市議会会議規則の一部改正について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	〳

※議長は原則として採決に加わりません。

会派等構成員一覧

緑	風	会	大杉 吉包	今井 俊郎	藪田 啓介	山口 善之	平畑 武
自由民主党	鈴鹿市議団		森 喜代造	矢野 仁志	宮木 健	森 雅之	山中 智博
リベラル	鈴鹿		水谷 進	板倉 操	森田 英治	大窪 博	伊東 良司
鈴鹿の	風		中西 大輔	中村 浩	後藤 光雄	平野 泰治	
公明	党		藤浪 清司	池上 茂樹	船間 涼子		
日本共産	党		石田 秀三	森川ヤスエ	橋詰 圭一		
市民クラ	ブ		大西 克美	原田 勝二	市川 哲夫		
諸派（無	所属の会）		明石 孝利	永戸 孝之			
無所属			宮本 正一				
無所属			野間 芳実（議長）				

※3月23日、採決時の会派等構成員一覧です。

代表質問 (要旨)

市議会ホームページにて代表質問の録画配信と会議録を公開しています。詳細は18ページをご覧ください。

自由民主党
鈴鹿市議団

森 喜代造 議員

施政方針について

(質問) 子育て対策について。子育てができる保育の整備と子ども発達障がいについて。

(答弁) 子育てと仕事の両立ができる環境の整備や、質の高い保育サービスを総合的に提供することは、子どもたちの健やかな成長を育む上で重点的に取り組む施策である。また、新築される西条保育所は、特別保育として、

病後児保育や一時預かり保育を行う子育て支援拠点施設とし、保育環境の整備を図る。

本市では、保育士などを養成する高等教育機関が市内に1校あることから、学生の就職状況や教育実習の受け入れ状況など、情報交換・情報共有を図り、本市で育った学生が愛着を持って、保育士として働くことに魅力を感じられるようにつなげていきたい。また、子ども発達障がいについては「集団適応健診」に取り組み、早期から支援することで、スムーズな就学へつなぐ体制づくりを進めている。

リベラル鈴鹿

水谷 進 議員

施政方針について

(質問) 財政運営から考えた政策の展開の考え方について。

(答弁) 総合計画 2023 では全ての予算事業を実行計画として位置づけ、計画と予算、評価との連動を図っており、市民生活に身近な喫緊の課題、中長期的な観点から今から政策的に取り組むべき課題に対応するため、できる

限り予算を配分し、総合計画の着実な推進に向けて予算編成を行った。今後の財政運営としては、予算編成時には市税などの経常的な財源の確保が不透明である一方、社会保障関係経費などの経常的な財政需要が見込まれることから、財政調整基金からの繰り入れを見込まざるを得ない状況ではあるが、予算の執行に当たってはさまざまな節減努力により歳出を抑制することで、できる限り財政調整基金を取り崩すことなく、ある程度の残高を保有しておくことができるよう努めていく。

緑 風 会

大杉 吉包 議員

施政方針について

(質問) 人口減少に伴う将来都市像について問う。①巨大地震、台風や集中豪雨など危機管理能力が求められているが、取り組み状況と今後の計画について。②将来にわたり次世代を担う子ども対策について。③産業政策について。④地域づくり協議会の設立状況について。

(答弁) ①南海トラフ地震発生確率が70%から80%に更新されたことから、鈴鹿市地域防災計画を見直し、改善を図る。②小学校3年生から英語教育を開始し、2020年度からは小学校でプログラミング教育を必修化する。③次世代自動車分野や航空宇宙分野への参入を後押しするほか、稲生高等学校への工業課程の設置に取り組み、ものづくりのまちの担い手の創出を図る。④市が想定する29の協議会に対して、現在25の地域で立ち上げが図られている。

鈴鹿の風

中西 大輔 議員

市政運営の基本方針を問う

(質問) 2期目の総括、地域、行政改革を聞く。10年間の人口動態、学力向上の成果、市債と基金の状況など、それぞれどうなっているか。「地域」が多用されているが、それぞれの考えと政策間の連携は。業務に緩みがあると考えるが改善と改革の意志は。市長をトップとする管理職のマネジメント力の強化は。

(答弁) 人口は、ピーク時と比べ約4千人減少した。全国学力・学習状況調査結果の推移を見ると、全国平均との差は縮まってきている。市債残高は約443億円、基金残高は全て合わせて約114億円である。地域づくり推進本部で、政策間の連携と、地域の考えや範囲の整合に取り組み。所属長のマネジメント力を充実させ、人材育成基本方針に基づき、人材育成と組織マネジメントの強化に努める。

その他の質問 ○財政に対する考えを問う
○子ども関連政策について問う

日本共産党 石田 秀三 議員

施政方針と新年度予算について

(質問) 市長は施政方針で「まず職員力の強化が不可欠」と述べたが、どのような人材を育成しようとしているのか。「職員力」という言葉を使うのなら、マニュアルに縛られ応用問題のできない人ではなく、「人間性の向上」を第一に掲げ、市民の悩みや苦しみに心を寄せ、どうすればその人の暮らしを支えていけ

るのか、共に考えることのできる職員像を理想に、人材育成を進めるよう提言する。

(答弁) 本市の職員として目指すべき職員像は、市民の立場に立って考え、信頼関係を築くことができる人間性豊かな人材である。

時としてマニュアルに基づいた対応だけではなく、求められているニーズは何であるのか、いかなる対応が必要であるのかを意識し、配慮する姿勢が必要であると考えている。

それぞれの職員が、その職員力をより高められるよう人材の育成に努めていく。

公明党 藤浪 清司 議員

施政方針について

(質問) 災害から市民を守る取り組みについて、地震発生時の避難者や帰宅困難者などの救助物資を計画的に備蓄するための取り組みを尋ねる。避難計画、特に、高齢者や障がい者などの要援護者に対する避難支援が重要であるが、災害から市民を守る取り組みを尋ねる。

(答弁) 過去最大クラスの南海トラフ地震が

発生した際、本市の避難所への想定避難者数1万2,000人に対して、非常食や毛布などの備蓄物資を更新も含めて充実させていく。

非常食については、2023年度を目標に、現在の約1万5,000人分の備蓄から、想定避難者数の2日分である、延べ2万4,000人分へ計画的に充実させていく。災害時の要援護者対策として、避難訓練や避難所開設訓練などにおいて、地域で暮らす高齢者や要援護者に対する安否確認の配慮など、支援の具体化が図られるよう啓発を進めていく。

市民クラブ 原田 勝二 議員

平成30年度施政方針について

(質問) 過去には通学路の縄手道にLED型灯具が設置されたことで、子どもたちの安心・安全が図られた。駅に防犯カメラを設置し、犯罪予防に取り組むとあるが、今後の計画を問う。広域観光やインバウンドによる外国人観光客の拡大、白子駅改修に伴う本市の地域資源の効果的な発信について問う。

(答弁) 市民の皆さまが安心して暮らすことのできる地域社会の実現に寄与することを目的に、防犯カメラを平成30年度に三日市駅と千代崎駅に設置予定である。小中学校の通学路における防犯カメラの設置については、鈴鹿警察署などと情報共有しながら今後の対応を検討していく。周遊モデルルートを作成や、ターゲットの絞り込みで外国人観光客をはじめ多くの誘客につなげる。市の玄関口にふさわしい白子地区の環境整備を進めていきたい。

一般質問 (要旨)

市議会ホームページにて一般質問の録画配信と会議録を公開しています。詳細は18ページをご覧ください。

無所属 宮本 正一 議員

中学校の部活動について

(質問) 市内公立中学校における活動状況と、スポーツ庁指針に基づくガイドライン策定の方向性や今後の部活動のあり方について問う。

(答弁) 部活動は教育課程外の活動であり、学校教育の一環として教育課程と関連が図られるよう位置付けられている。活動時間については平日1時間から3時間程度であるが、休日の活

動時間は各部活で異なる。休養日は全体の45%が月4回未満であるため、週1日以上休養日を設定するよう各中学校に指示し、今後は三重県部活動ガイドライン策定を踏まえ、鈴鹿市運動部活動指針の見直しを進める。外部指導員については、効果的な活用につなげるための体制整備を検討する必要があると考えている。高校入試の調査書に、部活動加入の有無や実績を数値化して加算する箇所はなく、外部団体に所属する生徒も確認の上、校内部活に所属する生徒と同様の対応としている。

公明党 藤浪 清司 議員

福祉医療費助成について

(質問) 障がい者医療費助成については、県内他市と格差がある。格差是正のため、身体4級まで、精神2級まで対象を拡大してはどうか。福祉医療費受給者で、医療費の自己負担分の支払いが一時的に困難な方に対して無利子で貸し付けを行い、支給される福祉医療費と相殺して返済に充てる「福祉医療資金貸付制度」を導入してはどうか。

(答弁) 障がい者医療費助成の対象は、県内自治体の中でも、県の基準を超えて実施しているところもある。各市の状況などを調査、研究したい。医療費が高額なほど、払い戻しを受けるまでの間の生活が苦しくなる場合があり、医療費の自己負担相当分の資金を無利子で貸し付ける制度がある。県内でこの制度を設けている市町はないが、県外他市で導入している制度の内容を調査、研究していきたい。

その他の質問 ○学習指導要領の改訂について

自由民主党 鈴鹿市議団 森 雅之 議員

鈴鹿市の公共交通政策について

(質問) Cバスは、中心市街地から距離がある、高齢化率の高い交通不便地域の移動困難性を解消するための方策として運行している。

本市では高齢化が進む中、今後の市民ニーズとして、免許証を返納する高齢者や日常の通院、買物に使える福祉的な役割が、市内中(特に公共交通空白地帯)で期待されると思わ

れる。

今後の公共交通政策をどうするのかを考え、Cバスの見直しなども含めて、本市全域にいる本当に困っている方の交通手段の確保へ転換を図る時期と考えるのがいかがか。

(答弁) 今後、その地域での機運が高まれば、小規模需要に対応する新たな交通サービスを、地域の皆様と構築していくこととなる。本市のモデルとなるような新たな交通サービスを構築していきたいと考えている。

その他の質問 ○今後の鈴鹿市の教育について

鈴鹿の風 中村 浩 議員

Cバスについてパート23

(質問) Cバスの延伸と経路変更は何を根拠に決定したのか。

(答弁) 今回の路線の延伸・経路変更は、既存路線において、利用者減少の状況の改善、利用者の利便性向上を目的としている。

現行の運行体制などを精査し、椿・平田線では、8時7分に鈴鹿ハンターに到着する便

2台のうちの1台の回送車両を飯野高校に回ることが可能か、経費も大幅に増加することがないかなどを運行事業者に確認し、経路の延伸を行うこととなった。

庄内・神戸線では、現行の運行ダイヤなどを精査し、一部、経路変更として、村瀬病院や鈴鹿エースに近接する神戸三丁目にバス停を設けることが可能であるということを確認し、経路の変更を行うこととなった。

その他の質問 ○救急出動について

リベラル鈴鹿 森田 英治 議員

大規模地震等災害時の対応について

(質問) 昨年、視察した相馬市から震災時の状況や対応について説明を受け、具体的な防災計画の必要性を痛感した。本市の現状と具体的な計画を伺う。

(答弁) 災害時の対応は、地域防災計画、運営要領、業務継続計画において規定している。具体的な対策は、時系列に沿って業務の洗い出し

を行う必要があり、その結果から課題に対して対策を講じる必要がある。

本年度より、地震災害対応業務に係る対策部署ごとの時系列の行動計画表の作成に取り組んでいる。この行動計画表を基に、応急対策における具体的な業務内容の確認や課題を話し合い、活動内容を示す「行動マニュアル」を作成していく。

紹介いただいた相馬市の事例をはじめ、被災自治体の事例を研究し、生かしていく。

その他の質問 ○一般会計からの繰入金について

リベラル鈴鹿 大窪 博 議員

学校区における危険箇所について

(質問) 未来を拓く子どもたちの大切な命と暮らしを、「安全安心が脅かされる危険な箇所」からどのように守るのか、現況と対策、今後の取り組みを伺う。

(答弁) 学校はもとより、地域、保護者、ボランティアの方々の協力を得ながら、見守りなどの推進を図り、危険な箇所などの事故を

予防している。

また、生徒会やPTAにおいても、危険箇所マップなどを作成し、児童生徒への注意喚起を図っている。

地域からの要望があれば、「ここは危ない」や「遊ばな、危険」などの注意喚起の看板を提供している。

今後は、安全を守る環境整備に向けて、安全教育の推進を地域住民と学校、行政が一体となって進めていく。

緑風会 藪田 啓介 議員

市民の安心安全について

(質問) 近年、救急車による搬送が増えてきているが、本市における入院を必要としない軽症搬送者が多いのはなぜか。救急出動件数が増え続ける中で、市民への啓発はどうなっているのか。また、地域の防災になくはならない消防団員が全国的に不足してきていると聞くが、本市の状況は。消防団員の処遇と

地域で支える仕組みはどうか。

(答弁) 救急搬送件数は平成29年中9,292件で前年より566件増加している。本市における救急搬送者の中での軽傷率は約6割であるが、迅速な搬送で軽症となる場合もあるので、かかりつけ医を持っていただく重要性などを啓発していく。消防団員の充足率は、定数455名に対し99.3%で全国・県平均を上回っているが、今後も現在市内に81店舗ある「みえ消防団応援の店」の取り組みを推進するなど、他に代替性のない消防団組織の維持に努める。

無所属の会 永戸 孝之 議員

社会、経済の変化に対応する、今後の自治体経営のあり方

(質問) 本市では、職員の人材育成の柱として、「鈴鹿市人材育成基本方針」に基づき人材育成を実施し、平成25年4月にアンケートが実施されたが、自分の能力が生かされていない、やりがいを感じていないという結果が顕著であった。

奈良県生駒市の元市長は、管理職若返り人

事制度など思い切った制度改革を断行しており、その他自治体でも意識改革組織活性化のための制度改革を実施している。本市の職員意識改革につなげる新たな方策は。

(答弁) 平成27年人材育成基本方針の改訂により課題の解消に努めた。目指す職員像では、「挑戦者である」を明確に掲げ、困難な課題に果敢にチャレンジし、合理的改善を求めるものであり、若手職員の積極的な管理職登用を図る。若手職員の積極的なチャレンジ精神は、組織の活性化に大きく寄与すると考えている。

鈴鹿の風 後藤 光雄 議員

観光入込客数の増加目標について

(質問) ①新たなシティセールス戦略の狙いは。②地域資源活用の取り組みで、市外で展開された事業を市内で開催してもらえないか。③鈴鹿墨を使って硯で磨るという習字の授業を行っている小学校は何校か。また、愛着と誇りを持たすための取り組みとは。④取り組みに職員の連携が必要ではないか。

(答弁) ①外部との交流に加えて、市民相互の交流を促進するため、市民に向けたプロモーションを意図した活動を含め「市に愛着と誇りを持ち、住み続けたい、あるいは応援したいと感じていただく方を増やす取組」とした。②本市の魅力ある地域資源を市外、市内に向けてさまざまな機会を通じてPRしていく。③墨の使用は9校。まちの魅力を知り、自信を持って鈴鹿を語り、将来、主体的に地域社会で活躍できる人材を育成したい。④庁内組織横断的に柔軟な取り組みを展開していく。

リベラル鈴鹿 板倉 操 議員

発達に課題を抱える児童の就学後について

(質問) 「長い間福祉の谷間で取り残されてきた」発達障がいへの支援は、平成28年の支援法の改正を経て、切れ目のない支援が具体化している。本市でも早期発見・早期支援のための5歳児健診が3年目を迎えるが、就学後も継続して集団適応を促す支援は保証されるのか、さまざまな障がいの特性に対してきめ

細かい支援は可能なのか、学校全体で発達障がいへの理解は進んでいるかなどの懸念がある。就学後の問題点として見えているものはあるか、把握しているか。

(答弁) 健診で10.9%の早期発見ができ、就学に向けての支援を始めている。就学後についても小学校と連携し、効果的な支援を実践していく。対応の増加が見込まれるが、専門家を含む教育相談事業の拡充もある。発達支援研修講座への教職員の参加も予想以上である。
その他の質問 ○財政調整基金を繰り入れての予算編成について

鈴鹿の風 平野 泰治 議員

子育て・子育て支援について

(質問) 子育て・子育て支援は、市の最重要課題としているが、次の2点を聞く。①ニーズに合わせた効果的なものとなっているのか。②必要な方に必要なときに届いているのか。

(答弁) 各種のアンケートや市長との懇談会、事業計画の外部評価、子育て支援総合コーディネーターによる調査などで、多様なニーズを

把握している。子ども政策部を中心に、子育て世代のライフステージに応じたサービスの充実に努めていきたい。国・県も含め支援策を必要な方に届けるため、あらゆる手段による情報発信に取り組んでいく。さらに、市内で子育て・子育て支援に取り組む企業や公益法人、NPOなど多様な主体との連携を深め、地域全体で子育て世代を応援する体制を整え、内外への情報発信に努め、子育てをしやすい市として選ばれることを目指す。

その他の質問 ○行財政運営について

鈴鹿の風 中西 大輔 議員

農村環境改善センターについて

(質問) 都市マスタープランに沿い、農村環境改善センターと西部体育館を統合した再整備を総合計画の後期計画に位置付けてはどうか。国に、「予算による支援措置」、「税制による支援措置」、「金融による支援措置」、「情報による支援措置」が考えられている地域未来投資促進法があるが、活用できるか。県との

関係、課題は。

(答弁) 農村環境改善センターや西部体育館なども老朽化している。都市マスタープランは土地利用の可能性を示したものであり、今すぐに事業を進める区域と決まっていない。総合計画期間内に取り組むのは難しいが、スポーツ推進計画でスポーツ施設のあり方を検討する。活用には、県の基本計画のうち3つの要件を満たす必要がある。どのような施設整備を行うか、事業者選定などが課題である。

その他の質問 ○子ども食堂について

自由民主党 鈴鹿市議団 山中 智博 議員

ヘルプマークについて

(質問) ヘルプマークは、体の内部の病気や障がいなど、見た目では分からない困難を抱える方が支援を受けやすくなるよう、2012年に東京都が作成した。19都道府県が導入し(2月20日現在)三重県でも6月から提供開始の予定だが、本市での導入や啓発への考えは。

(答弁) 県ではヘルプマークの普及を目的に、

マークをデザインした「ヘルプカード」(図)の配布を2月から開始した。連絡先や必要な支援の内容を記入し携帯してもらうことで、災害や体調不良などの緊急時に、適切な支援が受けられることが期待される。カードは本市でも障がい福祉課や地区市民センターなどで配布しており、今後はマークの啓発にも努めたい。



その他の質問 ○先端技術の活用について

日本共産党 橋詰 圭一 議員

地域づくり協議会の課題について

(質問) ①自治会事務委託料が一括交付金として協議会に交付される場合、各自治会に入る委託費は現行単価より少なくなるのではないか。委託事務の内容を見直すことも必要ではないか。②生活支援コーディネーターは、地域づくり協議会にどのように関わるのか。③市は協議会の事務局員へのフォローを行うのか。

(答弁) ①自治会への配分が現行より少なくなることも想定される。委託事務の見直しを求める意見もあり、庁内でも検討を行っていく。②生活支援コーディネーターは、生活支援や介護予防に関する地域課題について相談を受け、地域づくり協議会をはじめ、地域における多様な主体の方々と協議しながら、その解決に向けて、必要な支援などを行う。③側面的な立場からの支援を引き続き行っていく。

その他の質問 ○ 橋梁の耐震化と津波避難路について

日本共産党 森川ヤスエ 議員

小中学校トイレの早期改修について

(質問) いろいろな方から学校のトイレなんかかなりませんかと声が掛かる。多くの市民が悪臭の改善、洋式化を求めている学校トイレはいつになれば改善されるのか。水をかけ、ブラシでこすって掃除をしなければならない湿式床は衛生上も問題があり、湿式床のまま洋式化するだけでは問題は改善されない。床

を乾式化し、洋式トイレとするよう求める。

(答弁) 小中学校トイレについては、校舎の改築や大規模改修の機会に併せて、便器の洋式化や床の乾式化を行ってきている。学校トイレの整備の必要性は十分認識しているが、まずは、事業化に踏み出した石薬師小学校屋内運動場や大木中学校の改築事業に傾注したいと考えている。学校トイレの整備事業は、これから策定する学校施設の整備方針の中に位置付けを行っていく。

その他の質問 ○ 多子世帯の学校給食費軽減について

日本共産党 石田 秀三 議員

国民健康保険料の負担軽減を

(質問) 国保には、公的医療保険の中で、多くの不利な制度的欠陥がある。その1つが、生まれたばかりの子どもからも保険料を取っていることである。「均等割」保険料は1人4万800円、3人兄弟なら年12万2,400円もの負担が掛けられている。子育て支援を重要な政策の柱にしている末松市長に、子どもから保

険料を取り立てる制度的欠陥の是正を、市として進めてきた子ども医療費無料化の延長として制度化することを求める。

(答弁) 子どもにかかる均等割の総額は、15歳までは約3,300人で1億3,400万円、18歳までは約4,100人で1億6,700万円である。軽減するには財源が必要だが、この財源を確保する状況にない。国に軽減制度の創設を要望している。

その他の質問 ○ 学童保育の現状について

市民クラブ 市川 哲夫 議員

セットバックについて

(質問) 道路後退用地内の擁壁などの除却に要する助成金制度を地域の特性などを考慮した助成制度へ改善はできないか。また、寄附しない道路後退用地の舗装整備を行うことはできないか。

(答弁) 地域の特性などを考慮した助成制度への改善については、石積みや長大な擁壁などは、

市街化調整区域に限らず、市全域に点在していることから、地域に限定せず、個別の対象物に対する助成制度として整理している。

寄附しない道路の舗装整備については、建築基準法の規定により、道路後退しても市に用地を寄附しない限り、原則お断りしている。

県内でセットバック事業を実施、または検討している行政庁で狭あい道路整備事業関係担当者会議を設置しており、諸課題について協議、検討を行っていきたいと考えている。

その他の質問 ○ 市南部のインフラ整備について

緑風会 今井 俊郎 議員

不登校対策について

(質問) 現場の教員は日々の業務が多忙で不登校児童や生徒に関われない現状があるが、行政支援は限界がきているように考える。スクールカウンセラーそして民間の団体や大学生のボランティアの協力で、行政支援では手の届かないところは、民間支援で不登校の解消につなげていくべきと考えるがどうか。

(答弁) 教育委員会事務局は、初期対応の充実や人員の増員などにより不登校対策の強化を図っている。文部科学省は、不登校対策における民間支援の活用について、地域の実情などを十分に踏まえ、段階的に推進する必要性を指摘しており、今後は不登校児童生徒の多様な状況によりきめ細かく対応していくために、民間の団体などを含む多様な関係機関との連携について研究していきたい。

その他の質問 ○男女共同参画推進について
○地籍調査について

公明党 船間 涼子 議員

成年後見制度について

(質問) 身寄りのない認知症高齢者、親亡き後の不安を抱える知的障がい者や精神障がい者に対して、意思決定支援・身上保護を重視した成年後見制度の利用促進が求められている。住み慣れた地域で、生きがいと尊厳をもって生活できるよう、地域で連携し、見守り支える市民後見人の養成を進めることが必要で

あるが、本市の取り組みや考えを尋ねる。

(答弁) 市民後見人は、市民の生活感覚を生かしたきめ細かな後見活動ができ、その養成と実際に活動いただける人材確保は重要な課題であると認識している。市民後見人の育成は、地域住民への啓発と理解を深めることが必要である。本市と鈴鹿市後見サポートセンターみらいとの協働により、市民後見人・親族後見人などの育成に向けて、今後、市民向け成年後見入門講座開催を予定している。

その他の質問 ○図書事業について

無所属の会 明石 孝利 議員

地域防災計画から地区防災計画へ

(質問) 本年2月、南海トラフ地震の30年以内の発生確率が70%から80%と10%引き上げられたが、そのような中、鈴鹿市全体の広域的な地域防災計画から、市内各地区の居住者などが自らの手で、自分の命、身の安全を守るべく、地区の特性を生かし、かつ自助・共助の根幹である地区コミュニティを生かし

た地区防災計画を早急に策定すべき時なのではないか。そしてそのために、現在まだ市内1地区しかできていない地区防災計画の策定に向けて、「地区防災計画作成マニュアル」をつくり、市がイニシアチブを取り、進めていくべきと考えるが、いかがか。

(答弁) 今後、先進自治体の取り組みについて研究し、地区防災計画作成マニュアルに取り組むとともに、地区防災計画作成の目標値達成に向けて計画的に取り組んでいきたい。

その他の質問 ○企業版ふるさと納税の活用について

市民クラブ 大西 克美 議員

白子駅西駐輪場の整備事業

(質問) 新たな駐輪場の整備計画について。

(答弁) 公益財団法人自転車駐車場整備センターと使用貸借契約などを締結し、同センターが、現在の白子駅西第2・第3自転車駐車場の場所と白子駅西の近鉄線沿いの水路敷地の上部に新たに有料制の自転車駐車場を設置して、25年間の管理運営を行う。

整備では、屋根の修繕、管理棟の新設、照明灯や防犯カメラといった防犯設備の設置、自転車ラックの新設などを行う予定である。



全体の工事費は約1億6,500万円を予定しており、本市の負担は1,843万5,000円となっている。

その他の質問 ○南海トラフ減災の車中泊整備について

議 会 を 傍 聴 し ま せ ん か



本会議や委員会などを傍聴するときは、市役所14階の議会事務局で傍聴券を受け取ってから入室してください。傍聴の受け付けは、会議開会の30分前からです。

なお、会議開催予定は、市議会のホームページや市役所の掲示板などでお知らせします。



本会議場：定員53名 委員会室：定員10名

音声が聞き取りにくい方に



議場傍聴席にて聞き取りにくい方には、ヘッドフォンを貸し出していますので事務局へお申し付けください。



議会に來れなくても…

CNS（ケーブルテレビ）で生放送

本会議の全日程をデジタル122chで生放送しています。放送時間は午前10時（開会時間）から会議の終了までです。

議会のホームページで録画映像配信

市議会のホームページで、テレビ中継した全日程の映像をおおむね2週間後に録画配信しています。

スマートフォン・タブレットなどのモバイル端末でも視聴できるようになりました！

もっと詳しく知るには…

会議録があります！

会議の詳しい内容については、市役所本館14階の議会図書室と4階の行政資料コーナーで閲覧できます。

なお、本会議の会議録は、市立図書館や各地区市民センターなどでも閲覧できます。

また、鈴鹿市議会ホームページで会議録を公開しています。

※2月臨時会・3月定例会の会議録は、6月上旬に配置予定です。

詳しくは議会事務局にお問い合わせください

皆様のご意見をお聞かせください

市議会や市議会だよりに対する皆様のご意見・ご提案・ご要望をお聞かせください。今後の参考にさせていただきます。

あて先は

鈴鹿市議会事務局

〒513-8701 鈴鹿市神戸一丁目18番18号
TEL:059-382-7600 FAX:059-382-4876
mail:giji@city.suzuka.lg.jp

議員からの寄附は禁止されています



議員（候補者を含む）が、親睦旅行会・会合・お祭り・運動会などの行事に、寄附や差し入れなどをしたり、祝い金（出産・新築など）や贈り物をするのは、公職選挙法などにより罰則をもって禁止されています。皆さまのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

5・6月の会議日程

※日程は変更される場合があります。

5月	22日	火	10:00	文教環境委員会 産業建設委員会	14日	木	10:00	本会議（一般質問） 議会運営委員会（本会議終了後） 各派代表者会議（議会運営委員会終了後）	
	24日	木	10:00	総務委員会 地域福祉委員会		15日	金	10:00	本会議（一般質問、追加議案等、委員会付託） 予算決算委員会（本会議終了後）
	25日	金	10:00	議会運営委員会			19日	火	10:00
6月	1日	金	10:00	本会議（提案説明）	20日	水		10:00	総務委員会（分科会） 地域福祉委員会（分科会）
	4日	月	14:00	議会運営委員会		25日	月	10:00	予算決算委員会 各派代表者会議（予算決算委員会終了後） 広報広聴会議（各派代表者会議終了後）
	11日	月	10:00	本会議（質疑、一般質問）	27日		水	10:00	議会運営委員会
	12日	火	10:00	本会議（一般質問）		28日	木	10:00	本会議（委員長報告、討論、採決） 全員協議会（本会議終了後） 議会だより編集会議（全員協議会終了後）
	13日	水	10:00	本会議（一般質問）					